

自助

自らの安全は自ら守る

いつ起きるか予想できない災害。いざというときに困らないよう、普段から、非常時に持ち出すものを準備し、家族で防災について話し合っておくことが大切です。



非常時に 持ち出すものを 準備しておきましょう！

■一人ひとりで準備するもの

ヘルメット／手袋／衣類（長袖）／タオル／懐中電灯／現金（小銭を含む）

■家族で準備するもの

食料品、水（1人1日3ℓ×3日分）／携帯ラジオ（予備電池含む）／救急薬品／カセットコンロ（予備ボンベ含む）／アドレス帳および通帳のコピー・印鑑／ロウソク／ライター・マッチ／ナイフ／雨具／ティッシュ

家族で…

- 火の始末の担当を決めておきましょう。
- 家族それぞれの避難場所を決めておきましょう。
- 落ち合う場所を決めておきましょう。
- 非常持ち出し品の分担を決めておきましょう。

災害時の十分な注意と早めの避難態勢をとるために、「とつとりし防災マップ」や本市ホームページなどで地域の中のとこが安全か確認しておきましょう。さらに、避難場所や安全な避難経路も家族全員で下見をしておくことも重要です。

また、家族が離ればなれになつているときに災害が発生した場合や、はぐれた場合の連絡方法や集合場所を決めておきましょう。自分の

安否を伝えたいときなどには、「災害用伝言ダイヤル」や携帯電話の「災害用伝言板」が便利です。

こういった話し合いを積み重ねることによって、いざというときにも適切な行動がとれるようになりま

覚えておきましょう！災害時の連絡方法

■災害用伝言ダイヤル「171」

NTTでは、震度6弱以上の地震発生時など、被災地への安否確認電話が集中する場合に「災害用伝言ダイヤル」サービスを開始します。災害用伝言ダイヤルの開設、登録できる電話番号などの運用条件などは、災害後、NTTが決定しテレビやラジオ放送でお知らせしますので、「171」をダイヤルし、利用ガイダンスに従って伝言の録音・再生を行ってください。

NTT 西日本 <http://www.ntt-west.co.jp/dengon/>

■携帯電話「災害用伝言板」

大規模な災害が発生した場合、NTTドコモの「iMenu」、auおよびTU-KAの「EZweb」、Vodafoneの「Vodafone Live!」のトップに「災害用掲示板」が追加され、自らの安否状態を登録することが可能になります。

登録された伝言は、インターネット接続が可能なパソコンや他社の携帯・PHSからも下記のURLで参照できます。

NTT ドコモ <http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>

au および TU-KA <http://dengon.ezweb.ne.jp/>

Vodafone <http://dengon.vodafone.ne.jp/>

これらのサービスは、毎月1日と、防災週間（8/30～9/5）、ボランティア週間（1/15～1/21）に体験利用ができます。いざというときにスムーズに利用できるよう、ぜひお試しください。

※1月1日は体験利用ができません。また、実際に災害が発生したときには体験利用ができないことがあります。

共助

私たちの地域は みんなでする

「共助」とは、自分の安全が確保された後に、周りの人と助け合うことです。これまでの災害においても、最も多くの人命を救ったのは地域の住民のみならず、さんによる助け合いでした。

災害時要援護者に配慮を

平成16年7月、新潟県で発生した豪雨災害では、多数の被害者が発生しましたが、そのほとんどは70歳以上の高齢者でした。また、11年前の阪神・淡路大震災においても、高齢者の死亡割合が高かったことが注目されています。

これは、災害が起こった場合、消防、警察、県、市などの防災